## 働き方再考(第10回)

## DaaSでテレワーク。クラウドサービス選定基準を解説

2021.05.12



働き方改革の機運にコロナ禍が加わり、中堅・中小規模の企業にもテレワークが広がるなど、これまでの働き方を見直す企業は少なくない。当初はテレワークに必要なICT環境の準備も十分に整わないうちに手探りで開始したものの、コロナ禍が長引く中でさまざまな課題が浮き彫りになっている。

## パソコンにデータを残さない仮想デスクトップ

その1つがテレワークやリモートワークで利用するパソコンのセキュリティ対策だ。オフィス勤務と異なり、在宅勤務ではパソコンの管理が本人任せになりがちなため、ウイルス感染などの被害に遭うリスクが高くなる。

セキュリティリスクを回避するため、企業の機密データや顧客情報などはテレワークで扱わないといったルールを打ち出す 企業もあるが、業務データと機密データを分けて社員に管理させるのも大変だ。テレワークが常態化する今、業務で利用す るパソコンのセキュリティ強化を再検討する時期にきている。

業務データを保護する効果的な方法は、パソコンにデータを残さないことだ。それには大きく分けて2つの方法がある。1つは、自宅などのパソコンからネットワークを介して社内のパソコンを遠隔操作するリモートデスクトップだ。自宅のパソコンには業務データが残らないものの、社内のパソコンと合わせて2台分の運用管理が必要になる。

もう1つは仮想デスクトップだ。会社のマシンルームやクラウドに置かれたサーバー上の仮想マシンに接続して遠隔操作する。ユーザーのパソコンにはデータが残らないので、不正アクセスや端末の盗難・紛失で重要データが漏えいするリスクを回避。加えて、IT管理者はパソコンの故障対応など、運用管理の負荷軽減が可能だ。

クラウドサービスの利用を第一に考える… 続きを読む

1 / 1